

を集める便があり將來を囑望されてゐる。

(一五) バ ガ ン

ミンヂヤン縣バガン郡バガン區にあり、イラワチ河畔ニヤウンウの下流四哩にあり、物産としては漆器がある。舊首都で西紀八四七年ビンピヤ王の創立にかゝり、一二九八年その王國の滅亡迄存続した。有名な寺院、アナンダ、タツピンコ、シュウエグ等があり、バガン王朝時代の諸王の建てた諸廟宇があり、破損度の異なる數百の塔が周圍にある。それで「破損した塔の町」ともいはれてゐる。

(一六) バ コ ッ ク

バコック縣バコック郡バコック區にあり、舊バガンの舊跡の上流十八哩でイラワチ河の右岸に位する、ゴー地方及びチンドウイン谷の商業中心地であつて、支那人の移住又はその大きな煉瓦造りの家が總ての通りに見られる。河が氾濫する時は附近一帯は泥澤となり鴨の養殖場となるが、乾上ると米作が行はれ、高い地方では煙草、胡麻が作られる。上ビルマの路船の大中心地で往來する大船の大部分はこゝで作られる。絹織物も製造され、木彫も作られ、銀の彫刻及浮彫の裝飾品が製造されてゐる。地方にはバルミラ椰子とタマリンド樹が密生し、商業は主として獸皮、茅根、チーク、竹材について行はれてゐる。

(一七) シ ユ ウ エ ボ

シュウエボ縣シュウエボ郡シュウエボ區にあり、町は二哩平方で大部分は煉瓦、一部はスレートの城壁を繞らし、

西と北に煉瓦の内壁と漆を繞らし、堤の外壁の間に廣い水田があり、附近のカンドーチー湖より引水し得る。西北隅にあるポインドウ塔は有名である。

(一八) ヤ メ チ ン

メイクチラ管區ヤメチン縣にあり、町には一箇年約四千ルピーの利益のある大バザアがある。ヤメチンの語原は「里の去勢牛の群」「黒い水の地區」の意味で、この土地が硝石、其他の礦物を多量に藏し水が黒色であることを現はしてゐる。

(一九) イ エ ナ ン チ ョ ー ン

マグウエ縣イエナンチョーン區にあり、油田はビルマ最大のもので、町を距ること約三哩のトーンコロン及び其の附近にあり、操業は多年行はれ、しかも今尙ほ盛んに湧出してゐる。

	機械掘	手掘
一九三八年度	一一二、一八五、六七三ガロン	八三一、八四一ガロン
一九三九年度	一〇六、〇八九、二五〇ガロン	八二五、二九三ガロン

(二〇) マ グ ウ エ

マグウエ縣マグウエ郡マグウエ區にあり、マグウエ地方は平地であるが、北方は東岸に於て著しい變化をうけてゐる。即ち北方數哩は砂や砂利の間を流れ一條の深谿と水路によつて切られ、眞直な殆んど垂直な崖を深く刻んでゐる。

る。部落の周圍の小さなクリークや小川のほとりには大きな木がいくらかあるが、一般にはまばらな草の平野である。汽船の碇泊所は約三哩離れたミンギンにあり、爲にミンギンは近時急に發展するやうになつた。

(二) プローム

プローム縣にあり、イラワヂ河溪谷の左岸にある溪谷鐵道の終點である、驛は國道を距て、貯水池の背後にあり、道路が完備し、野營地があり、公共建築物が多い。人口は二萬九千。

(三) ヘンサタ

ヘンサタ縣にあり、イラワヂ河の右岸に位し、物産は、地方の土地が肥沃なので米の産が多い、住民は三分の二がビルマ人で他はシャン人、支那人、マドラス人、タライン人である。人口二萬八千五百。

二二一 ビルマ作戦の全貌

飯田中將を指揮官とするビルマ方面作戦軍は、その行動開始以來半歳で英蔣合體軍を撃攘し、全ビルマ區の戡定を終了し、ビルマは甦生して今や新建設へと巨歩を進めつゝあるのである、行動開始以來、五月末までの綜合戦果は次の如き輝しいものであつた。作戦を二期に分ち第一期を行動開始以來首府ラングーン陥落に至るまで、第二期を其後緬支、緬印境地區の制壓に至る五月末までとする。

此間の敵交戦兵力は十五萬、就中撃滅した兵力は英第七機械化旅團、印度第十七師團、重慶第二十二、九十六、二百四十九、五十五、九十三、二十八、二十九、三十八等、約十三個師團に上り、敵遺棄死體は約二萬四千六百、俘虜

は約四千三百であつた。又鹵獲品は銃器彈藥類が多く殊に車輛類は八千輛を突破した。

之に對する我が犠牲は戦死千二百八十九名、戦傷三千百五十六名で、他の方面の半數以下であつた。

このビルマ作戦の特徴、及び勝因の主なるものを擧げると次の如くである。

- 1 峻山嶽地、嶮岨地帯に於いての作戦であつたこと
- 2 言語に絶する酷熱瘴癘の地域で行はれたこと
- 3 幾多の渡河作戦を敢行せねばならなかつたこと
- 4 長距離の作戦を行はねばならなかつたこと、爲に従軍將士の勞苦は絶大なものであつたこと
- 5 英蔣合體の機械化部隊を急速に殲滅し得たこと
- 6 ビルマ住民の皇軍への協力が有效適切に行はれ、作戦を有利に導いたことが非常なものであつたこと等である

ビルマ綜合戦果

	第一期	第二期	合 計
遺 棄 死 體	五、五〇〇	一九、一〇〇	二四、六〇〇
俘 虜	一、九八六	二、三〇二	四、二八八
鹵 獲 品			
火 銃	一三九	二八一	四二〇
砲	四、七四八	六、五〇〇	一一、二四八
銃 器	一、六八〇	一三、一七六	一四、八五六
彈 藥	一、三五六、三八二	二、一〇五、九一九	三、四六二、三〇一
銃 彈			三六九

裝甲車	一〇一	三七一
車輛	一、三二六	四一二
我が損害	六、九二八	八、二五四
戦死	四三八	八五一
戦傷	八二六	二、三三〇
		一、二八九
		三、一五六

幅員六百軒、延長千軒を越ゆる峻嶮なる山地、攝氏四十餘度の酷熱を克服して敢行された壯大にして難澁なビルマ大作戦に關し、現地軍〇〇中佐は次の如き手記を大本營陸軍報道部に齎らした。

地理的にはビルマの最北端は重慶、長沙附近と最南端はサイゴン、フィリッピン島の北端附近とは同緯度であつて、熱帯から亞熱帯にわたつてゐる國である。またラングーン、マンダレーを連ねる線は大體ビルマの中心經度であつて、これを北に伸ばせばシベリアではイルクーツクとトムスクとの中間附近にあたる。即ちバイカルを遙に西に越してゐるわけである。地勢的に見るならば三方の國境はヒマラヤの支脈よりなる峻嶮な山地で圍まれてをり、若しビルマ進入のため海路によるにあらざれば是非このジャングルに圍まれた山脈を越えなければならぬ。氣候は三、四、五月といふ三箇月はビルマにおける乾季の末であつて一年中で一番暑い時節で、今次のビルマ作戦の大部分は實にこの酷暑の時期に行はれたのである。私がマンダレー附近で體驗した最高温度は攝氏四十二度であつた。ビルマにおいて現に兵力の行動しある地域は大體幅六百キロ、長さ千キロ以上の廣大な地帯に亘つてゐる。具體的にいへば南北においては南はラングーンから北はミトキーナまでが直距離約千キロ、一番西のアカヤップから東方サルウイーン河の上流までの幅が約六百キロ、これを我々の知つてゐる距離の梯尺に直したならば、六百キロの距離は東京―青森、或は東京―岡山の直距離に殆んど相等しく、支那大陸においては上海―漢口間の距離よりも一寸短い。又

南北のラングーン、ミトキーナの千キロといふ距離は、東京―福岡間の直距離、或は支那大陸の上海―宜昌間の直距離に略々等しい。これをもつてしても、ビルマ作戦が如何に廣大な地域にわたつて行はれたかといふことが判るのである。

(一) 第一期作戦

第一期作戦は敵の準備完からざるに乗じ、かつなるべく迅速にラングーンを攻略するために我も亦十分なる兵力の集結或は後方補給路の完成を待つことなく、逐次に開始された作戦であつて、従つて第一線部隊は非常な困難を嘗めつゝ行動したのである、即ちタイ國內に集結をした〇〇部隊はタイ國進入に引續き一部をもつてビルマの最南端ウイクトリア・ポイントを十二月十五日に攻略し、越えて一月四日にはバンコックの西方國境を突破してタポイに對する作戦を開始した。その主力は一月二十日にタイ國のラーヘン西方國境を突破してモールメンに向ひ作戦を開始したのである。

タポイに向つた一部は一月十九日には多大の戦果を収めてタポイを急襲的に占領し、爾後國境を突破した主力と相策應し海岸に沿ふ地區を北上して相共にモールメン市街に據る敵を撃破し、一月三十一日には同市を完全に占領した。

◆**寝耳に水の密林突破** この〇〇部隊の國境通過に際してはその一部の行動したタポイ方面に於ては殆んど道らしい道のないジャングル地帯に自ら道路を切開いて前進したのであつて、タポイ附近にをつた英軍は日本軍の有力なものが、あの大ジャングルを越えて來やうとは實は夢想だにもせず、日本軍はウイクトリア・ポイントを基地として南方から海路タポイを攻略して來るのぢやないかと豫想してをつて遂に日本軍に急襲されたのであつた。〇〇部隊主力方面は、辛うじて駄馬が通る道ではあるが、この駄馬道たるや一面の岩より成る斜面を二百メートル位眞直ぐに上るかと思ふと

逆に百メートル真つ逆様に逆落しをするといふ極めて急峻な箇所があり、馬が荷物を背負つたまゝ後にひつくり返るといふ様な状態のために部隊では相當数の馬をさへ失つてゐるのである。若しもこの山を越えてビルマ平地に進出した際に糧食が得られなかつたならば餓死しなければならぬとの心配をもつて山越えをしたのであるが、幸なことにモルメン平地は米の寶庫であつたためにこれは杞憂に終つた次第である。前に〇〇部隊に續行した〇〇部隊も〇〇部隊主力の進出した同じ道路を経て二月初めにモルメン東北約四十キロのバーン附近に進出した。この間一方においてはラーヘンからタイ、ビルマ國境に至る間の自動車路建設に着手してつたのである。これは工兵隊歩兵隊の外一部タイ國工兵の援助をもつて晝夜兼行、或ひはジャングルを切り開き、或は岩山を砕きつゝ自動車路の完成を急いだのであつて、最初タイ國側にこの道路の構築を要求したときは初めは六箇月と稱し、最小限三箇月はかゝるといつてをつたやうな状態で遂に軍自らこれに當り一箇月完成を目標とし、夜を日について作業を強行したのである。

自動車路の開通は爾後の作戰に非常な貢獻をしたのであつて、糧食彈藥は勿論各種の材料殊にラングーンに至る間の澤山の河を渡河するための渡河材料は、この自動車路が開通し始めてからやつと第一線部隊に追及し得たのである。

◆敵の反攻を撃碎 さてサルウイン河畔に於て渡河を準備した〇〇、〇〇の兩部隊は二月八日乃至十日に現地の舟筏により敵の抵抗を排除しつゝサルウイン河の渡河を開始し、爾後これらの部隊は並列して一意ラングーンに向ひ突進を開始したのである。この戦闘間英軍がラングーン防衛のため、印度から招致した印度第十七師團にシツタン河畔に於て大打撃を與へ、或はベグ附近に於て同じく印度から派遣せられた機械化第七旅團の反撃を肉弾を以て破摧し、〇〇部隊は三月八日長驅してラングーンを攻略したのである。英國のために戦線にかり出され、その犠牲となつた印度軍こそ同情にたへない。しかし第一期作戰は彼我の航空兵力の關係上敵の空中勢力を徹底的に破摧するまでに到らなかつたので、地上部隊は山地或はジャングル若しくは河川といふ地形の障碍を踏渉する傍ら、絶えず敵機の襲撃を排

除しつゝ前進しなければならなかつたのである。

以上の如き苦難に満ちた第一回作戰も戦果として遺棄死體約五千五百、捕虜二千、鹵獲品の主要なもの火砲類百四十、戦車装甲車合せて約百臺、自動車類千三百といふやうな多數に上り、且つ豫期した以上のスピードをもつて授蔭基地たるラングーンを攻略し得たのである。

(二) 第二期作戰

第二期作戰はビルマに侵入した支那軍及び英軍に對してシンガポール陥落に伴つて海路からラングーンに到着した有力なる増加兵力を合せて行つた大殲滅戰である。これこそこのビルマ作戰の大詰とも稱すべき一幕であつて、第一期作戰間各部隊が嘗めた數々の苦心もこゝに至つて初めて酬ひられたのである。

◆敵の水浸し戰術 當時ビルマの北部にはビルマ遠征第一路軍と稱し、重慶軍の約九個師、十萬餘がマンガレー、ラングーン道に沿ふ地區竝にその東方地區に配置された約三、四萬の英軍は主としてイラワチ河に沿ふ地區に配置されて居り彼等はヤメチン、エナンジョンの線を確保し、日本軍を水浸しにすると豪語して居つた。これはヤメチン、エナンジョン以南の地區はシツタン河竝にイラワチ河に沿ふ水田地帯で雨季に入れば鐵道、道路、部落を残す外は悉く水に浸る所である。従つて雨季まで支那軍及び英軍がヤメチン、エナンジョンの線を確保したならば、その南方地區に存在する日本軍は殆んど水の中に漬かり戦はずして勝つといふ意味である。

斯の如き敵の水浸し戰略に對してわが軍は、ひそかに思ひきつた包圍作戰を計畫したのである。即ち敵の兵力をこの正面に牽制し、この間兩側に準備した兵力をもつて一齊に敵の退路を遮斷するのである。即ち右翼においてはシャン州を経て遠くサルウイン河の上流怒江の線に突進して支那軍の退路を遮斷し、左翼においてはイラワチ河に沿ふ

地區を突破して、これも長驅印度に至る英軍の退路を遮断する。斯の如くしてビルマに侵入した支那軍並に英軍を完全に捕捉せんとする計畫であつたのである。この計畫は勿論御稜威の然しむるところではあるが、第一線部隊の異常なる努力によつて、計畫以上に立派に實現されたのである。

この際附言したいのは宣傳もこの殲滅戰の成立に重要な一役を買つてゐる事である。即ち前述のやうな作戰構想の下に敵軍を努めて正面に牽制するためには、地上からする實際の壓力と共に凡ゆる方法で敵の注意をこの正面に喚起しなければならぬ。このためにわが報道班がラチオにより或は飛行機によるパンフレットの投下により日本軍は大なる兵力をもつて直路マンガレーを衝くぞといふやうな宣傳を盛んに實施したのである。

◆北方へ反轉進攻 まづ包圍の基礎態勢はトングー、プロームの線で準備されたのである。この發展基地たるトングー及びプロームを確保するために〇〇部隊並に〇〇部隊がラングーン攻略に引つゞき休む暇なくして、直ちに北に反轉、〇〇部隊はトングー方面に、〇〇部隊はプローム方面に攻撃を始めたのである。〇〇部隊は三月の中旬、トングー南方地區において始めて支那軍と接觸し、攻撃を開始した。抑々この正面に出て來た支那軍は第二師であつて、これは蔣介石直系の最精銳軍と目されて居つた師團でその後にもこのトングーに於ける第二師程頑強に抵抗した支那軍はなかつた。これに對して〇〇部隊は長驅タイ、ビルマの國境を越えて以來の疲勞にも拘らず、又當時戰車もなく、大きな大砲も少なかつたにも拘らず、よく果敢な攻撃をして三月卅日にトングーを奪取したのである。

この時に於ける支那軍第二師の抵抗振りは、掩蓋機銃座の中の支那兵の如き銃剣で突き刺すまでは戰鬪を繼續し、又包圍されても最後まで踏み止まつて抵抗する等流石に見えるべきものがあつた。しかしこの精銳を誇る第二師も〇〇部隊が徹底的に撃破してから爾後に於ける支那軍全般の戰意は大いに衰へたやうに見られた。

◆敵戰車肉弾破摧 トングー攻略後〇〇部隊は新にラングーン附近に上陸した戰車部隊、重砲部隊等の増加を得て

更に北方に向ひ、攻勢前進に移つた。一方プローム方向に前進した〇〇部隊はプロームの南方に於いて英軍の機械化旅團を再び捕捉し、前面裝甲五十ミリといふ米國製の戰車に對し果敢な肉薄攻撃を加へ、戰車裝甲車合せて五、六十輛捕獲といふ戰果を挙げ引續き北方に突進を續け西翼包圍の基礎を進めつゝあつた。この間にラングーンに上陸せる〇〇部隊は自動車及び鐵道輸送によりトングーを経てその東方山地にひそかに轉進し、又やゝ遅れてラングーンに上陸せる〇〇部隊を〇〇部隊の後方に推進し、次で〇〇部隊と共に中央の第一線を承つてマンガレー方向に對し果敢な攻撃に移つたのである。

斯の如く中央及び西方に於けるわが軍の猛攻の爲にシャン地方の敵兵力は逐次平方面に牽制されて來たのである。恰もよしこの時〇〇部隊はシャン州南部を發し東翼の包圍網を完成すべく北方に突進を開始したのである。この〇〇部隊の突進は丁度敵の兵力配置の弱點に乗じたことゝ、又部隊が多數の自動車によつて機動力を與へられて居つたこと、又シャン地方の道路が山地であるにも拘らず案外良好であつたこと、更にシャン地方は高原地帯であつて晝は暑くも、夜間の冷氣の爲めに將兵が晝間の勞苦を回復することが出來たといふやうな好條件に恵まれ、殊に部隊の將兵が旺盛な攻撃精神で一意突進を斷續したことによつて將兵發進以來の念願たる天長の佳節即ち四月二十九日には早もラシオに突入したのである。

この〇〇部隊の突進振りを紹介するならば部隊前面の支那軍は道路及び橋梁を破壊して退却したのであるが、〇〇部隊は燃えつゝある木橋を自動車で強行通過し、橋の落ちるまでを一輛でも二輛でも前岸に進出するといふ極めて猛烈な追撃を實施した爲めに、敵は遂には徹底的な破壊を實施する暇なく、退路を失つてシャン地方の山の中に皆逃げ込んでしまひ、〇〇部隊は恰も疾風枯葉を卷くがごとく一意北方に突進したのである。

◆重慶軍の大暴狀 この東翼に於ける〇〇部隊の突進に呼應して西の〇〇部隊も前面の機械化部隊を基幹とする英

軍をあくまで追及しつゝ北進を継続し、マダウエ竝にエナンジョン附近では機械部隊の側面及び背面に對して急襲を加へ、彼我入り亂れて戦ふこと二日間に及ぶ混戦亂闘の後遂に再び起つ能はざる打撃を英軍に與へたのであつて英軍司令部が「英軍はイラワヂ作戦を變更するの餘儀なきに至つた」と悲痛な發表をしたのは實にこの時である。

以上の如く東翼に於ける〇〇部隊、西翼に於ける〇〇部隊の企圖的突進に伴ひマングレー南方地區に存在する支那軍主力も次第に動搖し、〇〇及び〇〇兩部隊の突進に伴ひ焦土戰術を實施しつゝ逐次マングレー方面に退却を行つたのである。この敵の焦土戰術振りには洵に徹底したもので支那軍の退却せる地域は部落も焼かれ、收獲された糧も焼却され、婦女子もまた犯されざるはないといふ狀況で、この支那軍の暴狀に對してビルマ人は怨み骨髄に徹すといふ實況であつた。

◆軍司令官も露營 斯の如くして兩翼包圍の進捗と中央壓迫とによりマングレーはラシオの攻略に遅るゝこと數日五月一日には遂に〇〇部隊によつて攻略された。この攻略に當つて軍司令官は自ら、戰闘司令部を第一線直後に推進せられ、マングレー南方地區に於いては果樹園中に露營せられ親しく戰闘を指揮されたのであつた。この後に於ける戰況は全く追撃戰或は掃蕩戰とも稱すべき形態で終始した。即ち、ラシオを攻略した〇〇部隊は休む暇なく直ちに主力をもつて緬支國境を突破、龍陵を経て雲南省怒江江畔の拉孟に、また有力な兵力をもつてイラワヂ河上流のミイトキーナに進出したのであつた。龍陵及び拉孟の占領は五月五日、ミイトキーナ占領は實に五月八日である。この〇〇部隊の作戰速度はトングー東方山地内のボウレエタを發して拉孟に至るまで十八日間に約千キロ、即ち一日五十數キロの速度であつた。

マングレーを占領した〇〇部隊は直ちに反轉して〇〇部隊の通過した後方地區に於けるこの敗敵の掃蕩を引受けたのである。一方〇〇部隊はマングレー附近に進出後一部はイラワヂ河を越えてパーモ方向にまた一部は鐵道線路に沿ひイラワヂ西岸地區をミイトキーナ方面に突進し殘敵を急迫し、また〇〇部隊はマニワ附近で退却中の英軍に打撃を與へ更に追撃の氣勢を弛めず、支隊を編成してチンドウイン河を舟艇によつて英軍退路上の要點たるカレワに向ひ推進せしめ、五月十二日恰も同地で渡河退却中の英軍の後尾に巧に喰ひついて自動車約二千輛戰車約百三十輛、火砲約四十數門といふ莫大な鹵獲品を得たのである。

以上のやうな戰闘の經過によつて第二期作戰は遺棄死體約二萬、捕虜二千三百、鹵獲品は火砲類二百八十、戰車、裝甲車三百餘、自動車類約七千の大戦果を得たのである。この第二期の作戰に於いては以上の各部隊の外、作戰に貢獻したものに航空部隊、鐵道部隊等がある。第二期作戰の當初に於いてわが航空部隊は徹底的に英、支の空軍を制壓した爲めに本期の地上作戰は非常に乗になつたのみならず地上各部隊殊に外翼の〇〇及び〇〇の兩部隊の包圍行動には終始密接なる協力をし、或は遠く支那軍、英軍の退路を遮斷し以つてこの殲滅戰の成立を容易ならしめたのである。作戰の末期に於いてはシャン地方はすでに雨季を迎へんとして天候も漸次悪化して來たに拘らずその悪天候を衝いて航空部隊は献身的な協同をして呉れたのである。又軍がこの廣範圍の作戰を支障なく遂行することを得たのは軍の補給幹線たるラングーン、マングレー間の鐵道を驚異的速度を以て修復した鐵道部隊に負ふところが少くない。以上の大殲滅戰遂行間、別に在印度英軍に對する戰略要點であるアキヤツプの占領が實施された。これは〇〇部隊の一部であつて不良な道路を行軍した後、民船を利用して海岸傳ひにアキヤツプに奇襲上陸し殆んど血を流さずしてアキヤツプを占領したのである。

◆ビルマ人の親日態度 最後にビルマ人の親日態度についてであるが今回の作戰が以上の如く極めて順調に行はれたその裏面にはビルマ人の絶體的な協力があつたことも否み得ない。

行軍に落伍した一名の兵と雖も何等危険を蒙らない許りでなく、ビルマ人は飲食のサービスから道案内までして呉

れるのである。又支那軍、英軍の情報は逐一日本軍に提供しこれが爲めに得た作戦上の便宜は少くなかつた。その日本軍の爲め糧食を調達し舟筏を提供し或は湯茶、果物を出して行軍の兵を勞ひ或は深夜十里の道を遠しとせず道案内をする等實に至れり盡せりである。

之れに反し支那軍に對するビルマ人の態度は憎惡の一語を以て盡きるのである。

即ちその暴虐が住民の反感を買ひ少數の支那兵の如きは、しばしばビルマ人によつて殺害せられ、支那軍自體がビルマ人のゲリラ戦に悩む状態で、これに對し蔣介石はまた「最近ビルマ進駐軍の兵にして駐屯地外に行動しビルマ人の爲めに危害を蒙り情報を敵に與ふるに至る者がある」と注意を與へてゐるのを見ても明瞭である。聞くところによればビルマ遠征第一路軍司令官羅卓英も遂に雲南方面には歸れず、各地をさまよつた結果、辛うじて印度方面に逃げのびたといはれてゐる。

◆昂まる反英熱 英軍に對するビルマ人の感情は既に先天的なものがあつた。英國の搾取と壓制とに對する反感は誠に根強いものがある。之が爲め英國はビルマ人に兵器を與へなかつたのであつて、我軍が敵とした所謂緬甸軍の如きも決してビルマ人より成る軍隊ではなく、チン、カチン等の蕃族や印度人より成る軍隊でこれを英人將校が指揮してゐるに過ぎぬ。わが軍がタイ、ビルマ國境を突破した際の如き行き先きの農村で或は老翁が或は若者が卓を叩いて日本軍と共に英軍打倒すべしと絶叫し却つてわが將兵をして墮若たらしめたのであつた殊に英軍の敗退に際しては電燈、水道、交通機關等あらゆる文化的施設を悉く破壊し盡しビルマ民衆の福祉を全く犠牲にした許りでなく、ビルマ人が命より尊しとする寺院さへ之れを陣地とする等の暴虐を敢てしたので民衆の反英熱は日と共に熾烈となり、數輛の英軍戦車が逃げ込んだのを日本軍に密告しこれを日本軍に捕獲せしめた村民を英軍が報復的に虐殺する等、英軍對民衆の争鬪が處々に現出し、崩壊せる英軍は支那軍同様身を容るゝところなくして遂に印度に退却したのである。

しかして斯くの如きビルマ人の親日態度に鑑み、かつは東亞共榮圏の重要な一役を擔任するビルマの地位を考へるとき、ビルマにある將兵はもちろん軍人以外の凡ての日本人はこの上とも眞に東亞の指導者たる氣持を持つてビルマ人に接すべきだと思ふ。これなくしてはビルマの民心を日本に歸依せしむることは不可能であり、これなくしては東亞建設の聖業の完遂も覺束かないと考へるのである。

一三三 軍政下のビルマ

(一) 新ビルマの誕生

ラングーン(一七、九、一) 大東亞共榮圏の有力な一端としての新ビルマ建設を目指す中央行政機關は八月一日バーモ博士を首班として成立して以來ビルマは雄々しくも新體勢を整へて立上つた。行政機關が最も力を傾注したのは中央及び地方の行政竝に警察機構の創設と人事の銓衡任命であつた。八月一日バーモ長官を始め各部長官が軍最高指揮官より任命され、行政機關が成立して以來直ちに各部次官を決定し、次に各局の構成と局長の銓衡を進め各部今後の運営方針の大綱を練る一方、地方の行政及び警察機構創設のため舊直轄地域を除く縣知事及び警察部長の銓衡に専念した、この結果各部の官制もほぼ完成した。

八月十八日の初會議で「ビルマに於ける好ましからざる諸外國人竝にイギリスの要素を一掃するため國內の官廳及び裁判所に於いて能ふ限り英語に代つてビルマ語を使用すべきこと」といふ議決が行はれた。右は裁判所に於いてはビルマ語又は日本語の使用を認めた我が軍令第六號に基いたものであるが、かつてはビルマ人の要求にも拘らず裁判所に於けるビルマ語の使用を遂に許可しなかつたイギリスの政策を想起して我が處理に感謝し、ビルマ語使用の運動

を逐次活潑化しつつある。更に最近の會議では初め豫算として教育の刷新農業の改善、模範農地の建設、輕工業の振興、新聞の統合等の重要事業についても漸次検討を進めてゐる。地方長官は八月中には全行政地域三十五縣のうち三十二縣の知事が決定し、ラングーンには近く市政が布かれる運びとなつてゐる。ラングーン市内には全國に魁けて地方裁判所が開設され、警視總監にはウ・パ・イー氏が就任、地方警察部長も既に三十二名の任命を見、未だ知事及び警察部長の任命を見ないのはメルグイ、ミイトキーナ及びパレワの三都市を残すのみとなつた、以上の地方長官と警察部長の大部分は舊政府當時の知事又は官吏及び警官であるが、その任命式に際してパー・モ長官が「ビルマ人の血と汗を以て任務を遂行せよ」と激励したのに対して使命完遂を誓つて各地へ赴任し目下それ々々地方行政及び警察事務の開始準備を進めてゐる。地方に於けるビルマ人自體の刑事事件は現在も少くはないが、我が軍政に關する限りビルマの治安は極めて理想的で、南方占領地域中最も満足すべき状態にあるといつてよい。パー・モ長官は一日記者に對し次の如く語つた。

「施政一箇月に當り私は日本に極く簡明な挨拶をおくりたい。それはビルマは日本を信頼するが故に日本もまたビルマを信じて戴きたいといふことである。この相互信頼こそ新しい日緬關係の基礎となるものである。私はこの信念に基づいて今後の困難な事業を完成して行く決心である」。

(二) 經濟復興著し

ラングーン(一、七、九、八)皇軍がラングーンを占領してより既に半歳、ビルマ全土の戡定が一段落してより三箇月を経過したが、我が軍政下のビルマの經濟復興は各種の困難を排して漸進しつつある。

イ 通貨工作の浸透

我が軍がタイよりビルマに進入した直後、飯田最高指揮官の軍令を以て從來のルピー軍票との等價流通を認める旨明らかにし正式には五月一日これと同じ布告を公表したが、當時より現在に至る迄人氣は軍票に集つてゐる。戦前のビルマに於ける通貨、流通高は凡そ二億ルピーで戦争に依る焼失、敵の持ち逃げ等に依つて一億一千萬ルピーに減じたものと推定され、しかも實際の流通高は物資との關係及び銀行の閉鎖及び小額貨幣の退蔵などで可成りの收縮を來したことが日本軍に對する絶大な信頼と相俟つて軍票の流通高を急速に擴大させたもので、その放出額は〇〇萬ルピーに達し勞力及び資材活用を目的とする我が通貨工作は中央地方を通じ極めて圓滑に浸透してゐる。

ロ 物價對策

物價對策についてはラングーン占領後に最高指揮官の名を以て暴利取締令及び物價据置令を公布し、更に違反する者は嚴罰に處する旨を明かにしたが、現在の物價は戦前に比し物によつては相當の昂騰を示してゐる。しかしこれは一部の輸入品を除いては物資の不足に依るものではなく、戦後に於ける交通機關及び運輸力の制約に基く物資の偏在に依るものである。従つて米、粳、鹽、砂糖などは生産地またはストックしてゐる場所と不足してゐる販賣地に依つて物價が異つて居り、この需給調整と物價抑制につき軍政部當局では配給機構の整備と交通機關の運輸力増強、特に後者に力を注いでゐる。配給機構は邦人の大商社十社を以て物資配給組合を設立し、各州及び縣にその地方支部を置き、その下に各地方より推薦し來つた邦人ビルマ人及び印度人の卸賣及び小賣商を集めて一般民衆への配給に當らせる計畫で當分の間は闇取引を防止、物資の配給を圓滑ならしめるため公定價格は設定しない方針である。この配給機構及び配給方法はラングーン市内では既に砂糖の配給に實施されて居り、今後逐次品目を増加することになつてゐる。中央地方を通じ今後この配給の對象となる品目は米、砂糖、食鹽、食用油脂、燐寸等で特にこの配給を實施することは機構とその運営如何よりも輸送力に頼つてゐるので、産業部では目下これら民需物資の鐵道輸送に軍當局の協力を求

めてゐるが、その他補助手段として道路輸送力を活用すべく、最近入手した〇〇臺のトラックとこれに必要な燃料をこれに充當することになつてゐる。

ハ 物資の確保

ビルマが他の地域よりの供給を最も必要としてゐる生活必需品は繊維製品で次で砂糖、食鹽、燐寸、煙草等であるが、差當りこれらの輸入には従來三百萬噸を輸出に向けてゐたラングーン米を供給品として交流を圖る方針でジャワより既に砂糖を輸入して居り、近く香港よりの煙草のストック品五億本の輸入が取りきめられる等既に計畫の一部が實施されつゝある。然しビルマの自給經濟の確立に一步前進するためその手始めとして邦人指導による印度人の砂糖精製工場、三萬五千錘の紡績工場などの操業開始を準備中であり、棉花は上ビルマの年産額十萬俵を數箇年で三倍にする計畫である。この他邦人及び印度人所有の造船所、精米所、製材所、油脂工場、自動車修理工場などが既に操業を行つてゐるが、ビルマ人の家内工業は現在の經濟復興の段階にあつては何等の役割も果し得ないので、産業部としては今の所家内工業の復興と其の活用については未だ對策を施すまでに至つてゐない。

ニ 金融對策

金融方面では従來ビルマの金融界を牛耳つてゐた印度銀行、印度貯蓄銀行を始め合計廿三の敵性銀行を閉鎖し、現在は正金及び南方開發金庫が専ら邦人商社の一般企業及び一部の軍直營を除く重要礦産、開發事業等への貸出しに應じ現在までの貸出額は四十萬ルビーに達してゐる。一般のビルマ人及び印度人への融資には専ら印度人金貸業者を利用せしめる方針を採つてゐるが、この金貸業者は従來一割五分乃至二割の高率で營業してゐた爲、近く新たに免許制を施行し、中央行政機關をしてこれに當らせると共に一定の改訂利率を軍令をもつて公布しもつて一般民衆に對する金融を圓滑ならしめることゝなる模様である。

(三) 中央行政機關成立とその意義

今日までに於けるビルマ建設の最大の成果は、行政府の設立であることはいふまでもない。ビルマ中央行政機關は昭和十七年八月一日、次の二つを目標として發足した。

- 一、大東亞戰完遂に徹底協力すること
- 二、ビルマの民力を急速且十分なる程度に充實すること

その構成は左の如くである。

行政長官	パー・モ博士
長官官房長	高野源進
無任所長官	タキン・ミヤ
内務部長官(兼)	パー・モ博士
財務部長官	ティン・モニ博士
農務部長官	タキン・ツン・トン
森林部長官	タキン・ツン・オク
商工部長官	ウ・ラ・ベ
司法部長官	ウ・ウー・アウン
土木復興部長官	バンドラ・ウ・セイン
教育衛生部長官	ラ・パ・ウイン
交通灌溉部長官	タキン・パ・セイン

しかして右行政機關は未だ完全な自治権を有するものではなく、日本軍最高指揮官の指揮下に置かれてゐる。即ち、今日ビルマは軍政下にあるが爲、最高の決定権は常に最高指揮官が把握し、司法、檢察、立法は最高指揮官の下に行はれ、行政機關は直接これらには干渉しない。行政機關に委譲された権限は司法檢察、立法及び用兵作戰と、これに關聯する事項を除く行政事務である。また行政區域も舊英總督直轄地たるシャン聯邦、サウンスツブ、シンカリム・ハムテイ及びハムテイ・ロンの三土侯國は除外されてゐる。

ビルマ再建の終局目標は、ビルマ人のビルマ建設、即ち完全獨立にあることは勿論である。然し乍ら、ビルマが完全獨立を得んが爲には、大東亞戰の完遂が先決條件であり、それを實現せんが爲には當面、ビルマの軍政は不可決の條件である。しかして、軍政下である限り、ビルマ行政機關が前述の如き權限に制限されたのは已むを得ないことであつた。

然し乍ら、それは飽迄も過渡的なもので將來に於ては、ビルマ人のビルマたる完全獨立の光榮が、ビルマに與へられることは勿論間違ひないことである。だからこそ飯田最高指揮官も、八月一日行政機關長官任命式に當つて、次の如く確言してゐる。

「日本のビルマに對する態度に關しては、東條首相の聲明せるところにして、この趣旨は本日に至るもなんら變更することなし」と。また云ふ。

「前記二大要件（大東亞完遂協力と民力充實）の實績に照しつゝ、逐次ビルマ人の欲する方向に進めたいき意向を有す」と。

したがつて、ビルマは今後、飯田最高指揮官の指示せる二大要件を遂行する限り、作戰、軍政を或る期間を経て確實に其の手に收め獨立の榮譽を贏ち得るわけであり、今日、ビルマ人が行政機關を持ち、右要件遂行に乗出したこと

は、その意義は高く評價さるべきである。

イ 民族對策

ビルマは現在ビルマ人の外に幾多の少數民族を擁してゐる。即ちビルマ人九百萬の外にシャン族百萬、カレン族百三十六萬、チン族三十五萬、カチン族十五萬、其の他四十七萬五千、合計三百三十萬があり、更にインド人百萬、華僑二十三萬人が居る。併して、之等諸民族はそれ／＼利害を異にして相對立し、しかもビルマ人はビルマ人で幾多の群小政黨に分れて、極めて複雑且激烈な相剋摩擦を繰返して來たものである。そして、かゝる對立摩擦こそ、今日までビルマ獨立運動を阻害して來た最大要因であり、英國のビルマに對する分割統治の鍵となつてゐるものである。そしてそれはまた、今日に於いては、ビルマ獨立の前提條件たる前記二大要件遂行の重大な障礙となつたものであり、それ故にこそ飯田最高指揮官も、特に國內相剋の排除を要請したのである。

さて、問題はこれをどう排除するかである。先づビルマ人の群小政黨の對立は、今回の行政府成立を機として統合の緒についた。即ち、ビルマ獨立運動の二大政黨たるシン・エサ黨（バー・モ黨）とタキン黨（ドバマ黨）とは、兩黨の重鎮たるバー・モ博士とタキン・ミヤ氏が行政機關長官及び副長官として手を携へて就任したことに依つて合同し、新たにドバマ・シンエサ黨を結成し、バー・モ博士を黨首として新ビルマ政治の推進力となるに至つた。またユナイテッド・ナシヨナリスト黨その他も今後特に國內政治諸勢力の結果を任務として就任せるタキン・ミヤ氏によつて漸次結果統合されるものと豫想されてゐる。斯くて、行政府の成立はそれ自體、國內相剋の排除の上に早くも大きな役割を果したものと云へる。また行政府が議會制度を廢し、長官會議をもつてこれに代へたことも、小黨相剋の弊を排除する上に有效な役割を果すものと考へられる。

ロ 印度人對策

ビルマに於けるインド人は僅か百萬人餘にすぎず、しかもその大部分は都市に集中してゐるが、彼等は不在地主として、ビルマ全耕地面積の四〇%を占有してゐる。また都市に於いても商業の七二%を筆頭に、企業管理人三〇%、熟練労働者五八%、技師三五%等の如く、重要な位置は殆どインド人が掌握し、ビルマ人は経済的に凡ゆる部門に於いてインド人の壓迫を受けてゐる。これが爲ビルマ人のインド人に對する反感は熾烈を極め、いはゆる「ビルマ人のビルマ」建設運動も先づインド人排斥運動として展開された程である。

パー・モ長官は今次政府設立に當つて、重大な施政方針の一つとして、インド人其他の少数民族に不當の壓迫を加へざる旨を聲明してゐる。また今日、ビルマ經濟機構に於いて樞要の地位を占め、且重要な役割を演じてゐるインド人を不當に壓迫すれば、ビルマ建設、特に經濟建設は相當の支障を來さざるを得ない。従つて、パー・モ長官が右の如き方針を明かにしたことは、策を得たものと云はなければならぬ。

(四) 政治部面の特記事項

イ 軍政の施行 (一七、六、五)

飯田ビルマ方面軍最高指揮官は四日軍政施行に關する布告を發しビルマ民衆の進むべき道を明示、その協力を要望すると共に大東亞戰爭の理想を完遂せんとする意志を闡明した。

同日午後二時、元首相パー・モ博士を始め永年反英獨立の爲、英國と闘ひ來つたビルマの要人百名を招集してビルマ中央行政機關設立準備委員會結成式を開催、パー・モ氏を委員長にタサン・ミヤ氏以下八氏を委員に任命した。新ビルマ建設の名譽を擔つたパー・モ氏以下は最高指揮官に對し日本軍に協力、全力を擧げて努力すべきことを誓つて式を終つた。

ロ 十二州知事決定 (一七、八、一五)

パー・モ博士を首班とするビルマ行政機關は成立以來着々成果を擧げつゝあるが、この程十二地方の知事が確定、十五日軍政監部に於て、飯田最高指揮官より辭令が交附された。

未決定の知事は、モールメン、タポイ、メルグイ、ミイトキーナの四知事のみである。

新知事の氏名は左の如し

ハンタワ	ウ・ハ・シ	イン	ウ・チット・マン
タト	ウ・オン・マン	タラ	ウ・キン・マウン、ビー
トング	ウ・パー・ナイン	タエツト	ウ・ソー・テイント
パコ	ウ・タ	カ	テイン・パー博士
マンダ	ウ・パーレン	チャウ	ウ・タン・セン
ビヤ	ウ・キン・バ	モン	ウ・バ・テイ

ハ 留學生派遣

ビルマ中央行政機關では新ビルマの建設と自給體制の確立に必要な基礎的條件として工業の振興を實現する爲め、豫て日本の優秀な技術を取入れる具體方法を研究してゐたが今回その方法として今後毎年二百名のビルマ青年を日本の工業大學又は工業専門學校に留學せしめる計畫を樹て萬難を排して實現を圖ることになつた。右の計畫については目下歸國中のビルマ軍政監部顧問櫻井氏が日緬協會の理事長である關係上同氏も、この實現の爲め、斡旋の勞を執り桐生高等工業學校に留學の交渉を行ふ模様である。

今回の計畫は日緬協會及び科學勳員協會等、我が官民有力團體の側面よりの援助によつて促進されるものと期待されてゐる。

(五) 財政部面の特記事項

イ ビルマ金融再建 (一七、八、二五)

新生ビルマの經濟建設工作は未だ硝煙の消えぬビルマ各地で既に着々と始められ、金融方面では横濱正金銀行の開店に續いて、南方開發金庫のラングーン支金庫が二十四日から業務を開始、潰滅したビルマの金融再建に乘出すことになつた。従來ビルマの金融は悉く英國又は英系のインド銀行並に重慶側銀行のみに握られ、預金者の大半はビルマ人であるのに反し、その利用者は殆んど英人であり、ビルマ人に對する殘された唯一の金融の途はインド人の高利貸、又は質屋であつた。斯くてビルマ民衆は英國の飽くなき搾取に喘いでゐる有様であつたが、此等の銀行は日本軍のビルマ進撃が開始されるや逸早く逃走し、ビルマ人の金融の途は杜絶するに至つた。

日本側では戦火に蹂躪されたビルマの經濟復興のために先づ正金銀行が邦人商社に對して資金の貸付を行ひ、次いで南方開發金庫の進出により一般ビルマ人、インド人に對する金融の途が開かれることになつた。

ロ 貨幣調整令公布 (一七、九、一七)

我が軍では先に飯田最高指揮官の命令をもつてビルマに於ける流通法貨たるルピーと日本軍票との等價流通を認める旨公布實施したが、我軍票の貨幣計算法は十進法であるのに對し従來のビルマ法貨は一ルピーが十六アンナ、一アンナが十二パイといふ印度式に計算法によつてゐるので、我軍政當局では従來のビルマ法貨の計算法を變更し、それによつてビルマに於ける流通法貨と日本軍票との價値を調整すると共に昨年十二月八日現在の流通貨幣と日本軍票の双方をビルマに於ける法貨たらしめる爲十五日付を以つて、行政長官の第一號法令としてビルマ貨幣調整令を實施せしめることとなつた。

右法令に依ればアンナ、パイを廢しルピーの百分の一であるセントを制定し新貨幣を造つて流通に置くこととなるのである。

ハ 金貨業取締令公布 (一七、九、一九)

ビルマ政軍監部當局ではビルマに於ける當面の金融對策として邦人の一般企業及び重要鑛山の開發事業に對しては正金銀行及び南方開發金庫をしてその資金融通に當らしめる一方、一般のビルマ民衆に對する金融の圓滑化を圖るため、従來庶民金融機關として重きをなして來た金貨業者(チエツチャ)を活用する方針を決定したが、この金貨業者は戦前は一割五分—二割の暴利を収めてゐた爲この活用に伴ふ對策として金貨業取締令を制定、二十日公布即日實施となつた。

この新法令の骨子は、従來無制限に放任されてゐた印度人金貨業者に營業許可制を適用して、一定の貸出利率に従はしめ、六箇月毎にその營業狀況を行政機關に報告せしめ、二箇年毎に登録を更新して登録税を徴收し、高利を抑壓すると共に行政機關の收入に充てるのである。

(六) 軍事部面特記事項

イ 俘虜 釋放 (一七、八、一八)

ビルマ派遣軍では十八日正午ビルマ作戰の俘虜中、東亞人の眞面目に立廻つたビルマ人カウワンチン准尉外七名、及び印度兵百四名を釋放した、彼等はいづれも日本軍の温情に感激、更生を誓ひつゝ家族に引取られた。

ロ ビルマ義勇軍改編 (一七、八、二六)

皇軍がビルマ進攻に際しビルマの國民軍としてわが軍に協力、英蔣聯合軍を撃滅し新生ビルマ建設に敢闘したビル

マ獨立義勇軍はビルマ防衛軍の一翼として發展的解消を爲した旨ビルマ作戦軍より發表された、尙七月二十七日飯田最高指揮官から舊義勇軍幹部オン・サンを防衛軍大佐に、オン・タンを同中佐に任命、次いで二十八日附で次の如く發令された。

(軍命令)	補ビルマ司令官	ビルマ防衛大佐	オン・サン
	補ビルマ軍參謀	ビルマ防衛中佐	オン・タン

(七) 産業部面特記事項

イ 紡織事業は富士紡が擔當 (二七、八、一一)

ビルマに於ける紡織經營については富士瓦斯紡績をして當らしめることとなつた。富士紡の委託經營に移される工場は、マンダレーの西南方ミンヤンにあるスチール・ブラザース社(英系)に屬するビルマ唯一の紡織工場で設備は戰前約一萬五千錘、其他織機、操棉機、搾油機も完備してゐた。

尙富士紡ではビルマに於ける棉花の栽培並に買收を行ふ筈である。

ロ 礦物の埋藏

ビルマの礦物埋藏量については、未だ十分な調査が行はれてゐない。しかし未だ積極的開發に着手されてゐない現狀に於いてさへ、前述した如き地位を占めてゐることは、その資源が如何に豊富であるかを十分物語つてゐる尙資源に關する限り、鑛業以外でも船舶用資材及びチーク材、畜産では牛、水牛、豚等極めて多種豊富なのである。

然し乍ら、資源の存在はそれ自體としては十分な現實的價值をもたない。それが現實的な價值に轉化する爲には、技術の高度化と勞働能力の向上を必要とする。

ハ 電力計畫

近代に於ける國土開發の鍵が鐵道の發達と電化にあることは、既に證明すみのことであり、軍が先づこの二つに着目したのは當然のことである。

今發電計畫を見ると、現在ビルマには大小百七十四箇所の發電所が數へられるが、その總出力は僅かに九萬三千KWといふ微々たるものである。しかるに、我が軍のビルマ進駐と同時にサルウイーン、シツタン、ビルン河等にわたる水力發電資源は忽ち明確にされ、ビルマ領内に三百萬KWに達する電源が調査され、早速開發計畫に着手するに至つた。

かくて、軍政部では、ビルマ發電第一期工事として十六年計畫で〇萬KW發電を目標に左の地點を指定し、着々準備を進めてゐる。

- 1 サルウイーン河中流地區(ベグー、トングー、サルウイーン等を中心に發電豫定地十箇所)
- 2 タウンジイ河地區(タジ、コロ、タウンジイ等を中心に九箇所)
- 3 サルウイーン河中流地區(南シャン中央及びケンツング州四箇所)
- 4 ウェリ河上流地區(北シャン及びポートウインを中心とする地區)

これらの工費は六億一千万圓餘の豫定であり、將來は更に大々的な開發を行ひ三百萬キロの電力供給の實現計畫を抱いてゐると傳へられてゐる。もしもこれらが着々完成の途につけば、雨季に於ける洪水問題も解決されるは勿論、ビルマは漸次工業國へと歩を進めることとなるのである。

ニ 米作と金融

ビルマの米作中心地はトングー以南の下ビルマで、ビルマ米産額の約八五%は同地方で産出されてゐる。然るに同地方の約半数は小作地でしかもこれら小作には貧農が多く彼等は從來耕作費用を地主から借りなくては耕作出來ぬ

状態にあつた。しかも地主は地主でその金を農村金融の總元締たるインド人チエチャイから借受けてゐたもので、その金額は三億ルピーの巨額に達してゐたと言はれてゐる。しかるにチエチャイがインドに逃れたと見られる今日、下ビルマの農村金融の途は絶たれてしまつた。これは直接、今後の耕作に響くと傳へられてゐる。

ビルマの耕作地面積の四〇%（下ビルマ五一%）がインド人の所有に屬し、その大部分がインド人高利貸の手中にあつた。ところが、彼等の多くが逃亡したと見られる今日、土地所有權が不明確である。したがつて小作人は耕作を開始しても收穫時に地主が現れ、收穫の只取りされることを恐れてゐると言はれてゐる。行政府としては農業再建に當り、この點に關しても至急農民を安定さすべき處置をとることが必要とされるのである。

昭和十八年八月三十日印刷
昭和十八年九月二日發行

臺灣總督府外事部

臺北市新富町二丁目一九四番地
印刷人 安東正紹

臺北市新富町二丁目一九四番地
印刷所 株式會社光明商會

993

147

終

